■児童文学
セミナー■

理論社刊

児童文学への
アプローチ／山本和夫

児童文学へのアプローチ

山本和夫

児童文学
セミナー

理論社刊

山本和夫（やまもと・かずお）

1907年4月　福井県小浜市に生まれた。東洋大学を卒業
現在　母校の東洋大学メルヘン研究会や短大部で，あるいは，三鷹市立図書館などで，児童文学の講座を担当している。日本児童文学者協会監事，トナカイ村の会会員。
主な著書　戦場の月（中央公論社）青衣の姑娘（河出書房）スズメを飼う少女（あかね書房）町をかついできた子（東都書房）燃える湖（理論社）どろぼうをけとばしたアヒルの話（さ・え・ら書房）詩のつくり方（ポプラ社）日本の伝説（偕成社）などがある。
現住所　東京都国分寺市本多五の四の五

児童文学へのアプローチ
© 一九六六年四月　第一刷
著者　山本和夫
発行者　小宮山量平
発行所　株式会社　理論社
東京都千代田区神田神保町一の64
振替口座（東京）九五七三六
電話（二九四）六五〇一～五
誠和印刷・橋本製本
定価　四〇〇円

はしがき

私は銀座や新宿の雑踏（ざっとう）の中を歩いていて、ふと思うことがある。

――世の中には、幸福な人も多いことは事実だが、また、不幸な人も多い。

不幸な人といっても、いろいろある。不幸には、いろいろの種類があるからだ。数多い不幸のうちの一つ。若い日に、心から感銘した文学作品に出会ったことのない人が、世の中には、たくさんある。人びとは、字を習いはじめた小学生の頃から、ずっと本を読んでいながら、その間、一ぺんも、深い、心に跡をとどめるほどの、感銘をうける作品との出会いがなかったとしたら、やはり、その人は、不幸にちがいない。

また、幼い頃に、深い感銘をうけたが、今では忙しさにかまけ、忘れてしまったという人もある。この人も、もちろん、不幸な人に数えられるだろう。

雑踏する人たちを、呼びとめて、ひとりひとりに聞きただしたら、どうだろう。

銀座や新宿などの雑踏の中で、次に、私は、ぼんやりと考えるのは、このことである。

――どうだろう。この雑踏の半数は、この不幸の中に、はいるのではなかろうか。

私は、この不幸な人たちに、今からでも遅くはないと告げたく思う。そして、この本が、その人たちの心のおてつだいをすることができたら、ねがってもないしあわせと思う。

この本は、児童文学への案内だが、しかし、児童文学に限定して語ったのではない。十分とはいえないが、文学作品の持つ基盤にかようようにと心がけたつもりである。本書の出版にあたって、小宮山量平氏ならびに太田美那子さんに、御世話になった。深謝の意を表する。

一九六六年三月

山本　和夫

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

もくじ

はしがき／1

第一部　創作童話について／7

1　創作童話の誕生……8

児童の世紀／8

小川未明のヴィジョン／9

山村暮鳥の童話観／14

鈴木三重吉の期待／16

2　児童文学とは何か……17

幸福を探す／17

子どもの心の糧／20

カモシカ少年の話／22

「二流」の文学か／23

「一茎の葦」の視座／25

的を射あてる矢／31

3　児童文学は乗り越える……37

文学の一ジャンルとしての児童文学／37

成人に残る童心性／40
狭い世界／42
「赤い鳥」の文学性／44
4 童心について……49
児童文学のエネルギー／49
童心は遺跡ではない／54
父の死にからまる話／56
ふる里に童心は生きつづける／60
おとなの秘密／64
個性をのり越えた童心／66
渡り鳥のかなしみ／67
5 将軍の涙と少女……77
6 童話は詩か散文か……83
幸福を探す人間／83
童話は詩か／87
童話は散文である／89
童心と詩と／92
第二部 少年詩について／95

7 少年詩のくさわけ……96
詩の旅人たち／96
古調の少年詩―有本芳水／99
口語詩の誕生―星野水裏／102
8 もう一つの太陽を！……116
児童詩について／116
少年詩のはじめ／118
偉大なエポック／122
もう一つの太陽を／126
乱れるこころ／130
余白について／143
第三部 民話について／153
9 伝承民話のふるさと……154
つわものどもの夢／154
伝承民話の二つの道／157
生きていた昔話／160
桃太郎の挑戦／166
桃太郎童話の成立／172

10 民話は生きている……179
ピカソのひとり言／179
歴史と生活の息吹き／182
毛沢東の哲学／185
フランスのパン／188
果樹をうえる老人／191
馬鹿と兵隊／192
金の鳥と雷将軍／194
11 大ぼらと誇張について……197
トロイの史実／197
神話のかけら／199
人と動物との共存の時代／203
スズメを捕る話／206
12 民話採集手帳……209
聊斎と怪異譚／209
佐渡を訪ねて／211
小夜中山の夜泣石／221

第一部

創作童話について

1　創作童話の誕生

＊＊　児童の世紀

日本に、児童文学者が、堰をきったように流れ出したのは、大正期である。それは「童心」を、作家が発見してからのことである。また、こうもいえる。

――この童心は、大正デモクラシーが、発見したのだ。

巖谷小波の『黄金丸』が発表されたのは、明治二十四年だった。このことは、日本の児童文学壇の偉大なるエポックであった。日本文学史に書き忘れることのできない大事件だったといえる。しかし、そのころは「童心」の宝は、まだ、あざやかには、認められはじめていない。

滑川道夫氏も、『児童芸術の形成』のはじめに、

「エレン・ケイ Ellen Key が、二十世紀の夜明けを前にして書いた「児童世紀」 The Century of the Child のなかで、フレーベルの〝子どものために生きよう〟を引いて、もっと意義ある〝こどもを生かそう〟というふうに改変されねばならないとさけんだ。それには、こども自身を、暗記する重荷

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

から、制度の形式から、大衆の圧迫から解放してやらなければならないという意味が強調されていた。日本の〝児童の世紀〟は、第一次世界大戦後、近代資本主義国家の形態をようやく整えた大正期後半に至って夜明けの鐘をきいたといっていいだろう。〝児童芸術〟あるいは〝童心芸術〟への開眼が、それであった。」

といっている。

「二十世紀は児童の世紀だ」と叫んだのは、エレン・ケーだった。

エレン・ケー、正しくはチュイ（一八四九―一九二六）は、スウェーデンの教育者だが、婦人運動にも尽くした。数多くの著書があるが、女史の全著作を一貫する主張は、婦人の向上と児童の愛護と人類の相愛で、代表作には『児童の世紀』『恋愛と結婚』などがある。

日本にも、大正期にはいって、ようやくこの声が、響き渡った。

その声に応じた実践は、児童文学者によってというよりは、一部の児童教育家の「自由教育」と並行して行われた。私立の小学校が、あちこちに生まれた。

そして、今までの学校教育における厳格な形式主義的教条主義に対し、やわらかな自由教育、芸術教育が叫ばれ、大正デモクラシーの旗を、いよいよ、あざやかにしたのである。

＊＊ 小川未明のヴィジョン

「童心」という平和な卵をみつけた日本の作家たちは、それを必死であたためようとした。

小川未明は、『未明感想小品集』（大正十五年・創生堂）の最後に、こう書いている。

理想の世界

「もし、美と正義の世界が、現実に存在するものなら、これは、まさしく「童話」の世界でなくてはならない。そして、この美しく、やさしく、平和なる世界の主人公は、もとより、子どもであるが、また、美と正義と平和を愛する人々である。

この世界ばかりは、一切の暴虐をゆるさなかった。また、いかなる権力も圧制も、かつて、この世界を征服することは能はなかった。これ、我が理想の世界である。」

これが、小川未明の生涯のヴィジョンだったといえるし、また、作家としての理想だったといえる。

未明が「童話宣言」を発表したのは一九二六年（大正十五年）五月で四十四歳の時だが、その年譜によると「一九一九年（大正八年）大庭柯公（おおば・かこう）、長谷川如是閑、有島武郎らと知る」とある。未明の前向きの姿勢は、この作家や評論家たちと共通方向にあったことが知られる。また、一九二〇年（大正九年）には日本社会主義同盟の発起人となり、一九二四年（大正十三年）には、日本フェビアン協会に入会し、「社会主義研究」に寄稿している。

こうして、彼は心の構えを充実させて、児童文学に突入したとはいえ、その理想は、政治家ではなく、美しい理想家として、いまあげたヴィジョンを抱いていた。

彼は、『未明童話集』（全五巻・一九二七年）の第一巻の序に、こう書いている。

「私の童話を書く態度でありますが、年令ということを、あまり問題にしていません。なぜなら、童話の目的は、大人にも子どもにも共通する童心の世界を耕すにあるからで、文字や、言葉づかいの上に、大人と子どもとには読過する際、難易の相違があるとしても、いづれが最もよくそれを解し、それを知るかということは、思うに、その人の素質にあって、その齢にはないからである。

一茎の花に対して、その美を感ずるに、また不可知の現象に対して驚異を感ずるに、また、正義に対して感激し、また、不幸な者に対し、憫（あわれ）みを催すに於て、むしろ、子どもの方が、大人よりは、より新鮮に、純粋に、殉情である場合が多いのであります。

この意味からして、童話は、文学の一形式でなければならぬ。新しく、なほ今後、開拓されなければならぬ芸術でなければならぬ。無韻の詩であり、特異な散文として、「童話文学」の名称の下に、すなわち、童心により、童心を対象として描かれたる芸術として、最も普遍性を有するものとして、文学史上に、劇や小説が有したほどの地位を有さねばならぬ」

未明は、子どもの心（童心）は新鮮で、純粋で、殉情であるというが、単に、こちらの岸から、むこうの岸を眺めるような姿でいうのではない。

見ると同時に、自分自身も、童心でありたいと念願している。

すなわち、未明は、童心を鏡にして、人間を追求しようとしていたのである。

未明が、東京日日と早稲田文学に、これからは、小説の筆を絶って童話に専念するという、「童話宣言」を発表したのは、童心を、ぎりぎりの通路にして、人生を歩もうと決心したからであった。未明は、童心を、ごまかしもきかなければ、妥協もできないものと見た。そこで、その

世界に、彼は、突入しようとしたのだ。

*

進藤純孝氏は「坪田譲治氏の意見」の中で、今日の児童文学の特殊性を、こういう。

「――児童文学などといって、ふつうの文学から区別されて、児童文学界なる特殊部落がつくられていたおかげで、童話作家たり得ている人も、けっして少くはない。――こういう特殊部落にしか通用せぬ童話作家が、作家であるわけは無論ない。「人間とはなにか?」の研究をいま一歩すすめるための手がかりとして「子ども」を採用する文学として、童話が、ふつうの文学のなかに帰るような場合には、作家失格者は続出するにちがいない。」

末明は、進藤氏がいうような「特殊部落の住民」となるために、童心を摑まえたのではない。子どもの心に童心を見、その童心にきりこんでいこうとしたのは、もちろん、子どもだけに通ずる「子どもだまし」の提供を考えたからではなかった。

進藤氏が、大江健三郎氏のことばをもじって、「(坪田氏が童話をかくのは)つねに変わることのない文学の主題〝人間とは何か?〟の研究を、いま、一歩進めるための新しい手がかりとして〝子ども〟を採用すべきだと考えた」からなのだと思う。

末明の遺したエッセイにも、また、それから童話作品にも、それがうかがえる。この厳しさの中に、「童心文学」が誕生したのであった。この童心文学の作品を、われわれは、「創作童話」とよぶ。

未明は、この態度を、厳格に、一徹に守りとおそうとした稀な作家だった。もっとも、人間は社会状勢の波に、ゆさぶられがちである。日本も、関東大地震以来、やがては、世界的な大不況がはじまり、ぐっと暗くなった。

そのうちに、満州事変（昭和六年）五・一五事件（同七年）と、血ナマグサイ日本にと、環境はめまぐるしく変っていき、大きな波に、揺られどうしに揺らいだ。そこで、未明も揺らいだ。

未明は、いつだったか、「せめて、ぼくらの仲間だけが、汚れないでいたら……」と、私に囁いたのをおぼえている。

その頃、前向きに、理想を追求していると信じられていた人たちが、銀行襲撃事件をおこしたとか、思想の争斗で殺しあいをしたとか、極端な右翼やテロに走ったとか、およそ未明の理想とは背馳（はいち）するような「事件」の報道が、新聞のページを、その頃、どす黒くぬりたくったのを見たからのことであった。未明は、はげしい世の波に揺られながら、目をしばたいたのだ。そのことを、私は、今も思い出すのだ。

未明は、しかし、揺られながらも、確乎と、その心底に、必死になって秘めていたのは、このヴィジョンだった。

それは死の日（昭和三十六年五月十一日）まで変わらなかった。

未明は、いつ、いかなる時でも、「児童文学の本質は、何か」と質問されたときには、躊躇す

ることなく、このヴィジョンを示したであろう。

アンデルセンは、「即興詩人」がイギリスで出版された時、その欣びにとりまかれながら、「神さま、あなたに対して、申し開きのできないようなことを、一筆たりとも、私に書かせて下さいますな」

と、いったという。末明は、戦争中、心を動揺させ続けながらも、その生涯のねがいは、「――私のヴィジョンから外れたことは書かせて下さいますな」であったろう。このことは、詩人山村暮鳥の場合でもいえる。

** 山村暮鳥の童話観

山村暮鳥は、キリスト者のたち場から、こういう。

「神話は、世界の創生記なら、童話は、人間の創生記だ」

暮鳥は、現実の子どもを、末明ほどには神聖化していない。この世の大人は悪い――物質的に走りすぎるから、子どもも、それに感化されて悪くなっていると罵ってさえいる。

例えば「人間の顔のこと」というエッセイの中で、日本人は、精神をなくし、幸福をなくし、物質的に、獣的になっていく階段をのぼっていると嘆き、

「さて、この眼を、子どもの上に落してみよう。諸君は、そこに、どんな子ども達を見るか。それはまったく小さな大人ではないか。その語るところ、行うところ、どこにその天真さや自然があるのか。子

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com